

旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定等懇談会第7回
会議録（公表用）

日 時	令和8年7月27日（月）13時30分～16時00分
場 所	東川町農村環境改善センター ホール
出席者	懇談会委員 29 名（本日出席 20 名。）／町役場 菊地町長以下 17 名／有識者 7 名／設計協力会社① 2 名）
配付資料	【資料 1】第 6 回懇談会・パブリックコメントの結果、【資料 2】旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想（案）、【資料 3】基本計画の進め方

1. 開会・あいさつ

- 町長：第7回を迎えた。昨年6月30日の第1回から約1年、令和5年からの調査を含め約3年にわたり、懇談会のみならず調査・内部説明会など様々な場で町民の意見をいただきながら検討してきた。すべてを決めきるのではなく、方向性を共有・確認できたことに意義がある。今後も状況を見極めながら基本計画を進めたい。駅跡だけでなくまち全体に波及する事業として、引き続き協力をお願いしたい。

2. 懇談事項

（1）第6回懇談会・パブリックコメント結果／（2）基本構想（案）／（3）基本計画の進め方

いずれも事務局より資料に基づき説明した。

- 委員：懇談会の議事録は閲覧できるようになっているか。

→事務局：本懇談会の議事録は、8月頃に基本構想の公表と同時に公表する予定である。

3. 委員からの意見（要旨）

- 住民代表として満足している。素晴らしい施設ができる方向で楽しみだが、来訪者の増加により交通量が増え、これまで除雪して使えていた箇所が使えなくなることも想定される。住民の生活がしづらくならないよう配慮いただきたい。文化創造エリアを先行するとのことだが、工事の時期・期間を伺いたい。

→事務局：工事着手は早くても令和11年以降になる見込みで、一部の開業は令和12年になる可能性もあるが、今後の状況次第である。

- 長期にわたり参加し、自身も多くの示唆を得た。人口減少が続く中、人材を確保しながら、負の遺産ではなく持続可能で魅力的な施設にしてほしい。
- 当初は懐疑的であったが、町民自身がまちの価値を再認識することからプロジェクトが始まり、町民を対象として発展していく形になれたと感じている。
- 歩行者専用道路化は影響が大きい。工事でも使う道であり、冬期・除雪時には車両が通

行できるよう配慮いただきたい。

- 駐車場が不足している。町外からは車での来訪が大半と考えられ、拡張が必要ではないか。「ローカルな文化施設」という発想は面白く、東川ならではのコンセプトミュージアムを期待する。
- 恵まれた施設が多い中、新施設でいかに集客の仕掛けを作れるかが今後大切であり、力を注ぎ続ける必要がある。
- 資料の木工関連産業の従事者が住民の約 40%との記載に相違ないか。

→ **事務局**：統計調査等に基づき、家族や林業等の業務も含めた数値である。

- 家具は 50 年かけて育った木から作られ、代々受け継いで使われるのが木工産業の良さである。東川と木の歴史が誰にでも分かる展示を用意し、無理に都会化しない形を望む。
- 開業 101 年目を迎え、東川町の発展とともに歩んできた。駅跡を単なる遺構として残すのではなく、中心市街地への回遊性や来訪者の移動拠点としての活用を想定しつつ、今後も協力したい。
- 子どもたちの学び・触れ合いの場、そして高齢者の集いの場になってほしい。
- 高齢者のためにバリアフリー対応をお願いしたい。歩行者専用道路は住民と歩行者がスムーズに通行できるように、また表示物の文字を大きくするなどの配慮をいただきたい。
- 町民全体が木に関わって生活していると改めて実感した。部会も立ち上がったので、木工産業界で励まし合い元気な部会にしたい。
- 本事業を通じて織田コレクションへの理解が深まった。旧駅の建物が目的を変えて新たな施設になること自体が素晴らしく、デザインミュージアムの起爆剤になると考える。
- 旭川家具は木材の加工から完成品まで地域で仕上げられる優れた仕組みであり、そうした点も施設で表現し、皆で学んでいけたらと思う。
- 資料で本施設を「ハブ」と位置づけているが、既に道草館が大きなハブとして機能しており、用語の再検討をお願いしたい。「農と食文化」の記述も道草館の実態と差異があり見直しが望ましい。今後も風通しよく意見交換できる形を望む。
- 懇談会は有意義だったが、保護者等には本事業がほとんど知られていない。作る過程を町民と共有し、気軽に議論できる場やワークショップを実施できればと思う。
- 学校が直接活用するのは難しい面もあるが、放課後の居場所や文化財保存という新しい要素として価値が高い。総論賛成でも各論で役割が見えにくい点が課題であり、使い方イメージづくりに積極的に提案していきたい。道の駅とモンベル倉庫の間を歩行者専用道路にするリスク、及びエリア B の利用者イメージを伺いたい。

→ **事務局**：現時点では回答できないが、今後の検討の中で取り組んでいく。

- 道草館がある中でハブ機能をここに持つのは難しい。旧駅は「旅の出発点・思い出の終

着点」というストーリーを持つ場所であり、東川らしさが観光施設には必要である。人口規模に対し事業費 40 億円という規模は、過去に同規模の事業例があったか伺いたい。

→ 町長：東川小学校は建物で約 25 億円、ゆめ公園整備を含め約 55 億円を要した。近年、建設費が大きく上昇しており、今後も上昇が想定される。「必ず 40 億円以内に収まる」という認識は誤解を招きかねない。

- 道の駅と旧駅跡の兼ね合いが気になる。赤レンガ倉庫群は文化を核とする施設、道の駅は商業中心の施設として住み分けができればよい。
- 新施設は生産者と消費者を結ぶ拠点になると考える。基本理念を違えることなく進めていただきたい。
- 様々な業種の方と話す機会ができ有意義であった。議事録等で過程を公表し、新しい進め方に転換していると感じた。作って終わりではなく、作ってから皆で議論を続けていくことが大切である。

4. 有識者からの総評（要旨）

- 旭川家具の中心に東川町の家具があることは間違いなく、これだけの家具メーカーが小さなエリアに集中しているのは世界的にも稀である。地域の潜在力を世界に発信し、生活デザインが地域の暮らしを高めていくことを期待する。
- 織田コレクションは家具のみならず照明器具・テーブルウェア・木のクラフト等の生活デザインが多くを占めており、幅広く展示・発信してほしい。旭川家具というブランドも併せて評価し、「見る文化財」から「体験し学ぶ文化財」へと発展させていきたい。
- 基本構想は今後長く続く骨太の方針であり、皆が理解できる言葉が必要である。「適疎」（建物の密度の低さが人のつながりを生む）、「文化農村」（農にまつわる祭事が地域文化として受け継がれてきた東川の特徴）、「デザイン」（暮らしを良くするために存在するもの）というキーワードを紹介したい。運営は町民が担う形を大切にしたい。
- 住民代表が率先して合意形成を図る姿にまちづくりのあるべき姿を見た。各施設の役割整理、導入機能のコンパクト化と優先順位付けを基本計画で進めてほしい。トップページから辿れる特設ページなど分かりやすい情報提供や、自治区ごとの説明機会の確保が望ましい。20 年後以降を見据え、各施設の維持運営費の見通しを明確にし、まち全体の再編と一体で住民と情報共有していくことが重要である。
- 「まち全体がデザインミュージアム」は支持されるコンセプトであり、暮らしをデザインの側面からどう表現するかが達成点となる。織田コレクションは町外・国外・専門家からも好意的に受け止められている。海外関係者が滞在して研究できる機能も検討いただきたい。受け手に分かりやすい情報発信を工夫し、ミュージアムの中身の運営

に積極的に参加する体制づくりを進めたい。

- 織田コレクションのミュージアムを長年目指してきた中で、東川町で実現できることが何より素晴らしい。デザイン関係者からの注目も高い。アクセスや駐車場整備の課題は今後の基本計画の中で具体的に解決されることを期待する。
- 住民との共創で進める手法は新しいまちの作り方であり評価できる。基本構想は、価値ある文化資源のホストとして手を挙げ、住民共創という難しい道を選んだ町の大きな決断と理解している。将来のまちをどうしたいかという大きな提案を、もともと住む人々が自らのものとして掴んでいくことが重要である。引き続きサポートしていきたい。

5. 閉会

- 町長：デザインミュージアムは織田コレクションという大きな文化資源があつてこそである。3年をかけて課題が一つ一つクリアになり、町民の理解が進む中で多様な意見が出てきた。20年後に子どもたちがより良い状態になっていることが最も大切である。財源についても、東川町ならではの取組の積み重ねにより持続的な確保に努めてきた。ふるさと納税による寄付も大きな成果であるが、制度は変化しうるため、財政・財源のあり方は今後も継続して検討していく。しっかりと進めることを約束し、感謝の言葉としたい。

以上